

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 川端 利幸
所属 (School) 大阪府立大学大学院
学年 (Grade) 博士後期課程 1年

留学先 (Name of overseas institution)
中国 深圳
留学期間 (study abroad period)
2017/9/11~2017/9/14

記入日 (Date) 2017/09/20

留学レポート Study Abroad Report

今回、私は中国科学院深圳先端技術研究院、南方科技大学の施設見学をしました。またその中で、博士研究員の方や学生の方と交流しました。項目ごとに紹介していきたいと思います。

中国科学院深圳先端技術研究院 見学

中国科学院深圳先端技術研究院では、人工網膜の開発部署の見学を行いました。人工網膜は製品化されており、手のひらサイズのチップを眼球内に埋め込むことで、見えるようになります。大きな電源も必要ないとのこと、目の不自由な方にとっては、人生を大きく変えることのできる代物であると思います。この研究は、デバイスの開発観点、デバイス装着のための手術のための医療的な観点、といった様々な観点からプロジェクトが同時並行で進行しており、とてもスピーディーに研究が進んでいます。日本の企業や研究機関には中々ないところかなと思います。中国科学院深圳先端技術研究院は、アカデミック施設ですが、製品応用に向けた研究が大前提であり、日本でいうところの企業内の研究所のイメージを受けました。近年、産学連携という言葉が出てきているように、製品開発にむけた研究が取り入れられています。日本の大学の工学部ももっと企業研究よりであれば、日本の社会はより発展するのではないかと一科学者として思います。自分は将来、医療関係の製品開発に携わりたいと考えており、自分が将来してみたい仕事に非常に近い印象を受けました。海外の研究機関への就職も選択肢の一つとして入れておきたいと思いました。



施設内のロビーにて展示物の説明を受けている様子



クリーンルーム前にて開発の説明を受けている様子

南方科技大学 見学

南方科技大学では、デバイス作製を行うクリーンルーム見学、研究室見学、キャンパス見学を行いました。クリーンルームは大阪府立大学内にもあるため、非常になじみがありました。研究室見学では、実際に研究されている内容を説明して頂きました。キャンパス見学では、学内用の車に乗せて頂き、キャンパス内を移動しました。日本では中々ないような体験でした。中国では全寮制が基本とのことで、寮も外からだけですが、見学しました。とてもきれいで、設備として整っていました。日本の寮も外国レベルの設備があれば、学業に励むことができるのではという印象を受けました。



クリーンルームでの説明の様子



車にてキャンパス内を移動中

博士研究員、学生との交流

今回の出張では、リーさんという博士研究員の方とリュウくんという4回生の学生が自分たちの出張中での生活をサポートしてくれました。リーさんは博士研究員1年目の方で、出張中での生活を常に助けてくれていました。非常に助かり、生活での悩み事を解決してくれました。また、自分たちの見学当日に講演での発表があったようで、その講演で発表予定であった自分の研究を話してくれました。また自分たちの研究にも興味を持ってくれたようで、数少ない交流の時間でしたが、非常に有意義な時間となりました。リュウくんもボランティアで自分たちのお世話をしてくれ、様々なところに連れて行ってくれました。2人が日本に来ることがあれば、ぜひとも恩返しをしたいと思います。



リーさんの研究の説明を受けている様子



リュウくんと交流中

最後に

このレポートを読んでいることであろう海外留学や交流を考えている人へのメッセージです。今回、自分たちは施設見学という海外出張中での交流でした。海外の学生との交流という枠組みであれば、一般的に考えられている長期留学以外にもたくさんあります。今回のような形もあれば、1週間程度の短期交流プログラムもあります。費用面が一番気にするところだと思いますが、大阪府立大学では、様々な補助制度があり、費用面での不安を軽減させてくれるだろうと思います。一度色々と調べてみて、工夫してみてください。海外での交流は、自分自身の考え方や価値観を大きく変えてくれるであろうと思います。